

## 東京湾再生に向けた下水道の取り組み

## 1 東京湾流域における下水道の状況

(平成12年度末)

	処理人口普及率 (%)	
		うち高度処理分
埼玉県	6.9	0
千葉県	5.6	0
東京都	9.7	8
神奈川県	9.8	7
東京湾流域全体	8.5	5
全国平均	6.2	8

東京湾流域における下水道普及率は、他の閉鎖性海域に比べてやや高いといえるが、高度処理の普及率はまだ低い状況にある。

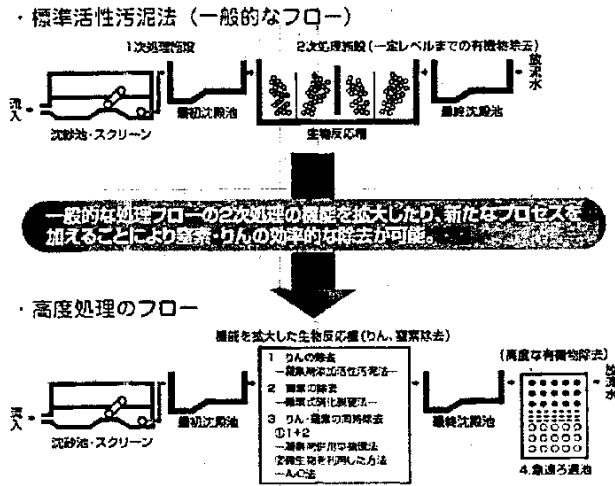
東京湾流域は生活系の発生汚濁負荷の割合が大きい流域である。このため、今後必要な汚濁負荷の削減量のうち下水道によるべき割合が過半であり、下水道の整備効果の極めて大きい流域であるといえる。

## 2 東京湾流域において今後取り組むべき下水道整備

## (1) 下水道高度処理の導入促進

下水の高度処理とは、湖沼や三大湾などの閉鎖性水域の富栄養化の防止、水質環境基準の達成・維持、水道水源水域の水質保全、処理水再利用等の必要により、通常処理よりも処理水の水質を更に向上させるために行われる下水処理のことをいう。

東京湾の水質改善に必要な汚濁負荷削減に対する下水道の役割は極めて大きく、このためには高度処理の推進が必要不可欠である。しかし、前述のように、東京湾に流入する流域においては、高度処理の実施はまだかなり低い水準にあるため、今後、強力に高度処理施設の整備を推進していく必要がある。



### 高度処理の事例

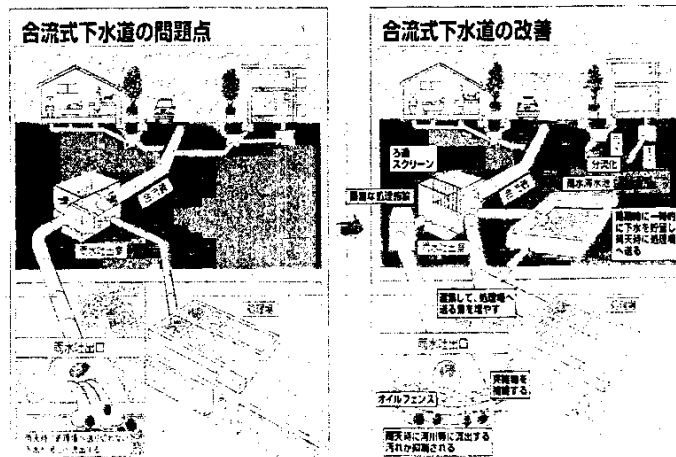
## (2) 合流式下水道の改善

合流式下水道とは、汚水と雨水を1系統の管渠で排除する下水道のシステムであるが、降雨時に汚水の一部が処理施設を経ずに未処理のまま河川や海域に放流されている。

現在、東京湾流域においては37都市が合流式下水道を採用している。

このため、今後、遮集量の増大化、初期雨水の貯留、合流式下水道の分流化等により、合流式下水道の施設を改善し、雨天時においても汚濁が公共用水域に流入しにくい施設に改良していくことが必要である。

国土交通省では、東京湾等において雨天時実態調査を実施するとともに、合流改善の目標のあり方や、対策の基本的考え方について「合流式下水道改善対策検討委員会」で検討している。また、平成14年度新規事項として、「合流式下水道緊急改善事業」を実施することとしている。合流式下水道を採用している全ての都市において合流式下水道緊急改善計画を作成し、速やかに、合流式下水道の改善を促進することとしている。



### 合流式下水道改善のイメージ